

昭和村教育振興基本計画

令和5年度～令和7年度

令和5年4月

福島県昭和村教育委員会

1 はじめに

昭和村では、第6次昭和村振興計画（以下、「振興計画」という。）が令和2年12月に策定され、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間の今後の村づくりの方向性とその実現のための基本目標を示す新たな指針とされています。さらに福島県では第7次福島県総合教育計画が令和3年12月に策定されました。これらを基に昭和村教育振興基本計画を策定することといたしました。

この計画は平成27年度から昭和村教育委員会施策基本計画として年度ごとに計画の更新をしておりましたが、これまでの計画に続くものとして「人と文化が息づく教育・文化の村づくり」を目標に各分野にわたる施策を推進し、それぞれの尺度で「こちよく」を感じられる生涯教育を目指します。

2 計画の期間

本計画は、振興計画の前期基本計画との整合性を図るため、令和5年度から令和7年度とします。

3 基本目標

生きる力を育む教育のむら

4 基本方針

- 昭和村の人と自然を生かした特色ある教育活動を展開し、子ども一人一人の個性や能力を最大限に伸ばし、「生きる力」（自ら考え、行動できる力）を育成することができるよう努める。
- 村民が郷土に誇りを持ちつつ心地よく暮らし、若者が「この村で働き、子どもを育てたい」と移住・定住できる村になるよう、教育環境の改善・充実を図ると共に、地域文化の振興と生涯学習の普及に努める。

5 基本計画

(1) 学校教育

【現状と課題】

- ① 近年は小・中学校ともに複式学級が常態化しており、教員の減員のみな

らず、養護教諭や事務職員まで削減されています。さらに特別支援学級の対象となり得る児童も在籍しており、子どもの学びを確保するためには、複式学級支援講師、特別支援教育支援員の確保及び特別支援学級の創設が急務です。

- ② 一人1台端末の導入が進み、発達段階を踏まえつつ、紙とデジタルの双方の良さを取り入れた学習や、遠隔地や他校との交流も行いながら、多様性を生かす探求的な学びを実現するための指導が課題です。
- ③ 持続可能な昭和村を築いていくためには子どもたちが人間性や社会性を育み「生きる力」を身に付け、故郷を愛し、貢献する心を養うことが大切です。
- ④ 築40年以上となる学校給食センターでは安全・安心でおいしい給食の提供に努めるため施設の修繕や設備の更新とともに、小中一貫校も含めた建て替えの検討が必要です。

【重点施策】

- ① 教育支援・教職員の確保と資質能力の向上
 - ・ 複式学級の実質的解消と特別支援学級の創設を含めた特別支援教育の充実を図る。
 - ・ 「教育は人なり」を基本に、子どもの人生に良い影響を与えられる優れた教職員の確保に努める。
 - ・ 全教職員が一緒に研修を深め、資質向上を図る。
 - ・ 幼少期から英語学習に主体的に取り組み、多様な価値観を受入れて豊かに自己表現できる、世界に通用する国際人を育てる。
- ② 小中連携教育・小中一貫教育の推進
 - ・ 中学校の専門教員による小学校への乗り入れ授業をはじめ、小中合同の文化祭を開催。小中一貫教育として実績のある学校への視察研修を行い、村ならではの教育を議題とした話し合いを行い、教職員及び保護者を含めた村民の意識の向上を図り、小中一貫教育への相互理解を深め、より一層の推進を図る。
- ③ 豊かな人間性を育む教育

- ・ 自ら学び自ら考える力を獲得させることにより、「確かな学力を身に付け、自己実現を図ることができる児童生徒」を育成する。
- ・ 少人数教育の利点を生かし、一人一人の個性や適性に応じた指導を工夫することにより、より良い社会生活を営むことができるよう人間性の向上に努める。
- ・ オンライン等を活用しながら、合同郷土学習や、他校との交流学习を積極的に推進する。

④ 特色ある教育活動の推進

- ・ 昭和村の豊かな自然に親しみ、体験を通して学習意欲の元となる好奇心を伸ばし、郷土の自然を守る心を養う。
- ・ 昭和村の特色ある産業（米や野菜、カスミソウ栽培等の農業、からむし織等の伝統産業）とその流通等について学び、郷土愛と誇りを持ち、村の将来の在り方についても考えることのできる人財を育てる。

⑤ 教育環境の整備充実

- ・ 学校事故の未然防止に努め、万が一事故が起こった場合に迅速かつ適切に対応できる体制を整える。
- ・ 通学時の安全対策、自然災害時の危機管理教育を充実させる。
- ・ いじめについては「昭和村いじめ問題対策連絡協議会」を活用し、未然防止に努める。また、不登校児に対しては、家庭訪問やオンライン学習等を通して、生活・学習面の支援をしながら、復帰に向けての望ましい環境づくりに努める。
- ・ 感染症に対する正しい理解を基に、保健衛生環境の整備に努める。
- ・ 村外から赴任する教職員が安心して村内に居住できる教員宿舎の確保と維持管理に努めると共に、宿舎の建設にも着手する。
- ・ 学校施設の老朽化に伴う修繕、改修を計画的に行うとともに、小中一貫校開設に伴う学校新築の検討を進めていく。

⑥ 心地よく子どもを育てられる環境づくり

- ・ 保健連絡会を活用し、障がいのある子どもの早期の把握に努めると共に、個に応じたより良い特別支援の在り方を検討する。
- ・ 特別支援学級の対象になり得る児童が在籍していることから特別支援

員の確保に努めながら、特別支援学級の創設ができるように会津教育事務所と協議をしていく。

- ・ 放課後児童クラブに活動場所を提供し、児童の安全安心な環境の整備に努める。

⑦ 安全・安心な学校給食の充実

- ・ 地場産の食材を活用し安全安心な学校給食を提供する。
- ・ 栄養技師等を活用した食育指導の充実を図る。
- ・ 農業体験を通し、食への関心を促す。

(2) 社会教育

【現状と課題】

- ① 自己実現による豊かな生活を送るため、生涯に渡り学ぶ必要性が高まる中、個人で学べるツールが充実してきていることから、意識的に仲間づくりの場を設けることが重要となる。
- ② 昭和村には独自の文化が根つき代々受け継がれてきたが、次世代への伝承が難しい状況が生じている。

【重点施策】

- ① 小学校や保健福祉課、老人クラブ等と連携し、好奇心と実体験を大切に、楽しく学べる子どもの育成を図るため、少年教室を企画運営していく。
- ② 生涯学習講座、千歳学級を開催し、村民の学習ニーズに沿った講座等を開催することにより積極的な学習を促す。
- ③ 昭和村民文化祭を開催し、作品展や芸能発表など練習してきた成果を発表する場を設ける。芸術鑑賞会では、演劇と音楽の公演を隔年で実施し、芸術文化に触れる機会を設ける。
- ④ 昭和村文化協会加盟団体の活動を支援し、「老人作品展」「囲碁将棋大会」「会津西部総合演芸大会及び会津西部巡回美術展」を共催により実施できるようにする。
- ⑤ 村民が読書に親しみ、書物を通して多様な学びができるよう、図書室の蔵書の充実を図り、併せて電子図書館サービスの導入を図り、読書の普及

と推進に努める。

(3) 生涯スポーツ

【現状と課題】

- ① 児童生徒をはじめとする若年層の減少に伴い、チームスポーツを楽しむ環境が少なくなっている。スポーツやアクティビティ等リフレッシュの機会を持つことによる日常生活でのスポーツの重要性が指摘されている。
- ② 既存体育施設の老朽化が進んでいるため、魅力ある体育施設等の計画的な維持管理に努めていく必要がある。

【重点施策】

- ① 村民運動会の開催をはじめ、各種団体主催大会の村民球技大会、家庭バレーボール大会、グラウンド・ゴルフ大会、少年教室スポーツ大会、福島県民スポーツ大会、市町村対抗野球大会、市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）等にスポーツ推進委員や体育協会等の団体の協力により村民の参加を促す。
- ② 昭和村運動広場（グラウンド・テニスコート等）の管理・運営と安全確保に努め、利用の促進を図る。

(4) 歴史・文化

【現状と課題】

- ① 地域で今も受け継がれている暮らしや、伝統文化、民具をはじめとする文化財、駒止湿原や矢ノ原湿原などの保護をしながら有効に活用し、伝えていく必要がある。
- ② 代々受け継がれてきた村独自の文化を次の世代に伝承することが、少子化の影響などで難しくなっており、若い世代の参画できる環境づくりが必要である。

【重点施策】

- ① 昭和村文化財保護審議委員会の活動の充実を図り、村指定文化財の巡視

・点検の他、新たな指定に関する検討や村内の文化財や遺跡等の調査及び保護を行う。

② 国指定天然記念物「駒止湿原」は、南会津町及び駒止湿原保護協議会における湿原の管理と整備、駒止湿原案内の会との連携による保護・活用を行う。

③ 福島大学等の動植物及び生態系を研究している専門家と連携し、村天然記念物で県自然環境保全地域「矢ノ原湿原」の調査や保護を行う。

④ 大学等と連携し、昭和村小野川生涯学習センターに保管してある民具の整理・保存活用を検討する。

(5) 国際理解

【現状と課題】

① 学校教育においては外国語指導助手（ALT）を配置し、子どもたちが確かな英語力を習得し、国際社会で活躍できる人材の育成を目指している。

② 生涯学習講座での大人の英会話教室や広報紙への寄稿掲載、日常生活での村民との交流を通しての他国の人々との多様性を認め合う体験を通してお互いを尊重して暮らせる環境づくりに努めている。

【重点施策】

① ALTの配置

② ブリティッシュヒルズ英語研修の実施

③ 生涯学習「英会話教室」開催

施策の指標・目標値

基本計画 (1) 学校教育

項 目	説 明	現 状	目 標
小学校学力調査結果 (平均正答率) (%)	確かな学力の定着を図るため「全国学力・学習状況調査」の学力調査結果を目標値とする	国語77.0% (全国65.6%) 算数72.0% (全国63.2%) 理科83.0% (全国63.3%)	全国(公立) 平均以上
中学校学力調査結果 (平均正答率) (%)	確かな学力の定着を図るため「全国学力・学習状況調査」の学力調査結果を目標値とする	国語71.0% (全国69.0%) 数学29.0% (全国51.4%) 理科54.0% (全国49.3%)	全国(公立) 平均以上
「自分にはよいところがある」と思う児童生徒の割合 (%)	「全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙の項目を測定指標とする	小学校66.7% 中学校66.6%	100.0%
「将来の夢や目標を持っている児童生徒」の割合 (%)	「全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙の項目を測定指標とする	小学校66.7% 中学校66.6%	100.0%
「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」だと思う児童生徒の割合 (%)	「全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙の項目を測定指標とする	小学校100.0% 中学校100.0%	100.0%
「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合 (%)	「全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙の項目を測定指標とする	小学校100.0% 中学校100.0%	100.0%
「学校に行くのが楽しい」と思う児童生徒の割合 (%)	「全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙の項目を測定指標とする	小学校66.7% 中学校100.0%	100.0%
給食がおいしいと感じる児童生徒の割合	児童生徒の給食評価	好評価の感想	好評価の増

基本計画 (2) 社会教育

項	説明	現状	目標値
少年教室実施回数	自然に親しみ郷土愛を育てるための体験活動件数	年間16回	年間12回以上
生涯学習講座、千歳学級の参加人数	講座への参加を促し、なかま作りの機会を促すための目標値	生涯学習127人 千歳学級153人	参加人数増
村民文化祭への出展、参加団体数	村民の文化活動の成果を図るための目標値	9個人 16団体	出展数・参加団体増
年間図書貸出冊数	公民館図書室の利用促進を図るための目標値	625冊	貸出図書数増

基本計画 (3) 生涯スポーツ

項	説明	現状	目標値
各種大会参加者数	健康づくりと村民の交流を図るための目標値	参加者合計 106人	参加者増
村有体育施設の年間利用者数 (下中津川体育館・野尻体育館・下平運動広場・健康増進施設)	スポーツを通しての交流を図るための目標値	利用者合計 2,971人	利用者増

基本計画 (4) 歴史・文化

項	説明	現状	目標値
指定・登録文化財の件数(村指定文化財)	文化財の保護活用及び指定登録件数の増加を目指す	22件	登録件数増

基本計画 (5) 国際理解

項	説明	現状	目標値
英語検定3級以上を取得した中学3年生の割合	英語力の向上を把握するための目標値	合格0%	合格80%以上

※ それぞれの現状の数値は、令和4年度（計画策定年度）の実績値。